

第6章 歯科口腔保健計画

歯と口腔の健康は、生涯を通じて自分の歯で食べることを可能にし、肥満や糖尿病など生活習慣病の予防につながるなど、身体の健康を保持増進する重要な要素となっています。

町では、「町民が日常生活において自ら歯と口腔の健康づくりを意識し、取り組むことを促進するとともに、生涯を通じて適切な歯科保健医療サービスを受けることができるよう環境整備を推進する」ことを基本理念とする「酒々井町民の歯と口腔の健康づくり推進条例」(以下「条例」という。)を平成24年12月に公布、施行するとともに、平成26年に「酒々井町歯科保健計画」(以下「前計画」という。)を策定し、様々な施策を展開しました。

この度、酒々井健康プランを策定するのに伴い、前計画策定時の値と現状値を比較したところ、前計画を見直し、新たに目標を立てることとしました。今後は、酒々井健康プランやその他関連する計画と整合を図るため計画期間を酒々井健康プランと併せて行います。

●●●新たな歯科口腔保健計画について●●●

前計画から得られた成果と課題を基に、歯科口腔保健をより充実・発展させるものであり、前計画を引き継いだ構成を基本としております。新たな計画の名称については歯科疾患予防だけでなく口腔機能の維持向上を掲げていることから「歯科口腔保健計画」とします。

施策の方向性1)

生涯を通じた歯科疾患の予防
及び口腔機能の発達と維持
向上の推進

施策の方向性2)

歯科口腔保健を推進するための
環境整備



酒々井町民の歯と口腔の健康づくり推進 条例(7条)における基本的施策

- 8020運動の推進
- 幼児期及び学齢期におけるむし歯予防対策
- 成人期における歯周病対策
- 障害のある者及び介護を必要とする者等の適切な歯科医療及び口腔ケア等の推進
- 生涯を通してよく噛むことかの推進
- 災害時における歯科口腔保健対策

前計画の評価（目標指標の達成状況）

計画策定時を基準として、目標値、現状値を用いて、到達係数を算出し、下記の判定区分に基づいた評価を行いました。

■ ■ 指標の判定区分と判定基準 ■ ■

A	目標値に達した	到達係数	100 以上
B	目標値に達していないが、改善傾向にある	到達係数	50～99
C	変わらない	到達係数	1～49
D	悪化している	到達係数	0 以下

$$\text{到達係数} = \frac{\text{現状値} - \text{基準値の数値}}{\text{目標値} - \text{基準値の数値}} \times 100$$

注) 「基準値」は、計画策定時の値です。

	指標	計画策定時 (平成24年度)	目標値	現状値 (平成29年度)	評価	
乳幼児期	3歳児におけるむし歯のない児の割合	81.3%	90%以上	86.1%	B	
	1歳6か月児で間食（おやつ）を1日3回以上飲食する習慣を持つ児の割合	7.1%	5%以下	7.2%	D	
	毎日保護者が仕上げみがきをする習慣のある児の割合	1歳6か月児	87.8%	100%	91.2%	C
		3歳児	74.0%		94.1%	B
	3歳までにフッ化物歯面塗布を受けたことのある児の割合	34.1%	75%以上	86.1%	A	
学童・思春期	12歳児における1人平均むし歯数	0.99本	0.5本以下	0.54本	B	
	歯肉の炎症所見を有する児童・生徒の割合	小学4年生	12.7%	10%以下	16.0%	D
		中学1年生	57.1%	20%以下	24.9%	B
	よく噛んで食べることを意識している児童・生徒の割合	小学4年生	76.3%	85%以上	84.8%	B
		中学1年生	67.8%		72.5%	C
	週1回以上自分の歯や歯肉の状態を観察する習慣のある児童・生徒の割合	小学4年生	57.5%	70%以上	61.8%	C
中学1年生		57.9%	61.2%		C	
成人・高齢期	30歳代で現在歯数が28本の割合	62.5%	65%以上	83.8%	A	
	80歳以上で20本以上歯を有する人の割合	42.8%	50%以上	26.1%*	D	
	定期的に歯科検診を受けている人の割合	30.6%	60%以上	46.2%	B	
	定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている人の割合	33.3%	60%以上	49.2%	B	
	成人歯科検診受診率	0.8%	2%以上	0.6%	D	
	40歳代で成人歯科検診において進行した歯周病を有する人の割合	34.5%	20%以下	34.5%	C	
	歯間部清掃器具を使用している人の割合	59.6%	70%以上	46.6%	D	
	よく噛んで食べることを意識している人の割合	54.5%	65%以上	56.8%	C	
	8020運動を知っている人の割合	60.0%	80%以上	46.4%	D	
障害等	定期的に歯科健康診査を受けている人の割合	42.6%	50%以上	47.6%	B	

*平成28年度酒々井町介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

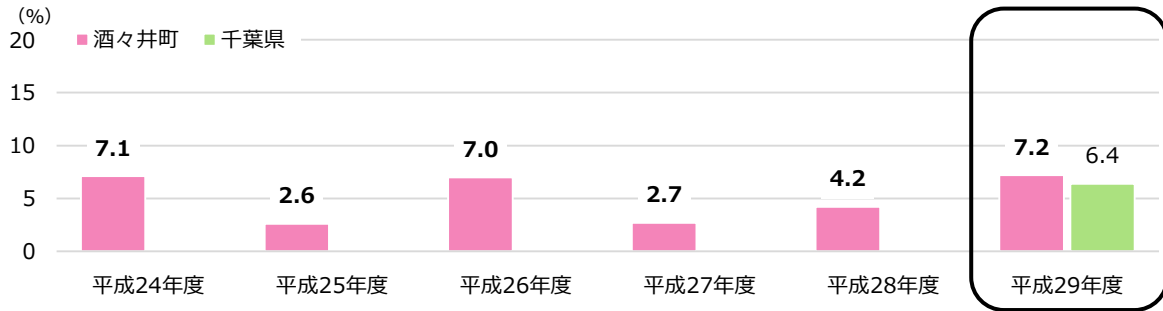
施策の方向性 1) 生涯を通じた歯科疾患の予防及び口腔機能の発達と維持向上の推進

(1) 現状と課題

●● 乳幼児期

1歳6か月児における1日3回以上間食の習慣がある割合は、平成27年度から増加傾向にあります。また、県内の平均値と比べて多くなっています。

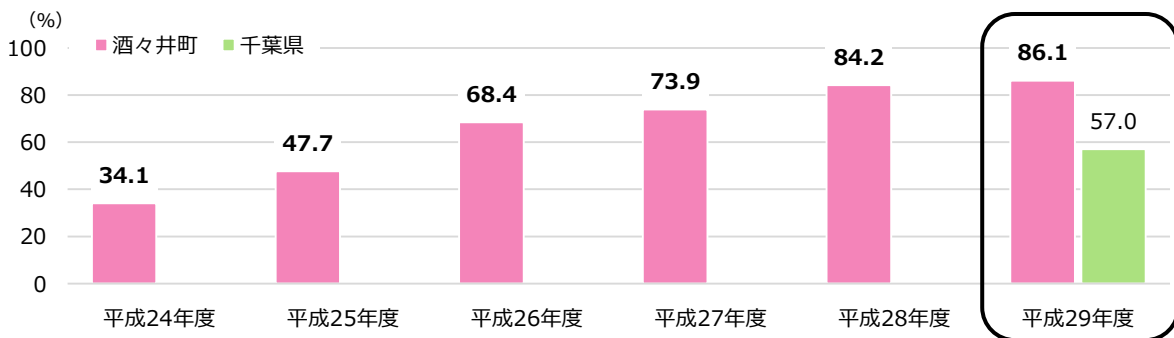
■ 1歳6か月児における1日3回以上間食の習慣がある割合の推移



出典：酒々井町保健センター 1歳6か月児健康診査データ（平成24～29年度）、千葉県（平成29年度）

3歳までにフッ化物歯面塗布を受けたことのある児の割合は増加しています。

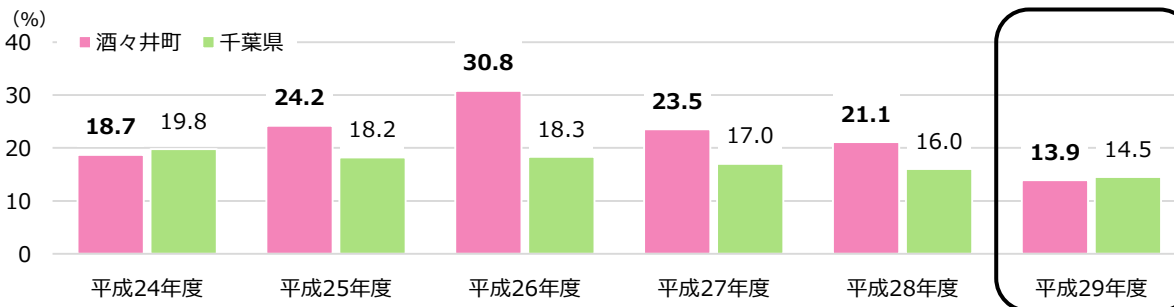
■ 3歳までにフッ化物歯面塗布を受けたことのある児の割合の推移



出典：酒々井町保健センター 3歳児健康診査データ（平成24～29年度）、千葉県（平成29年度）

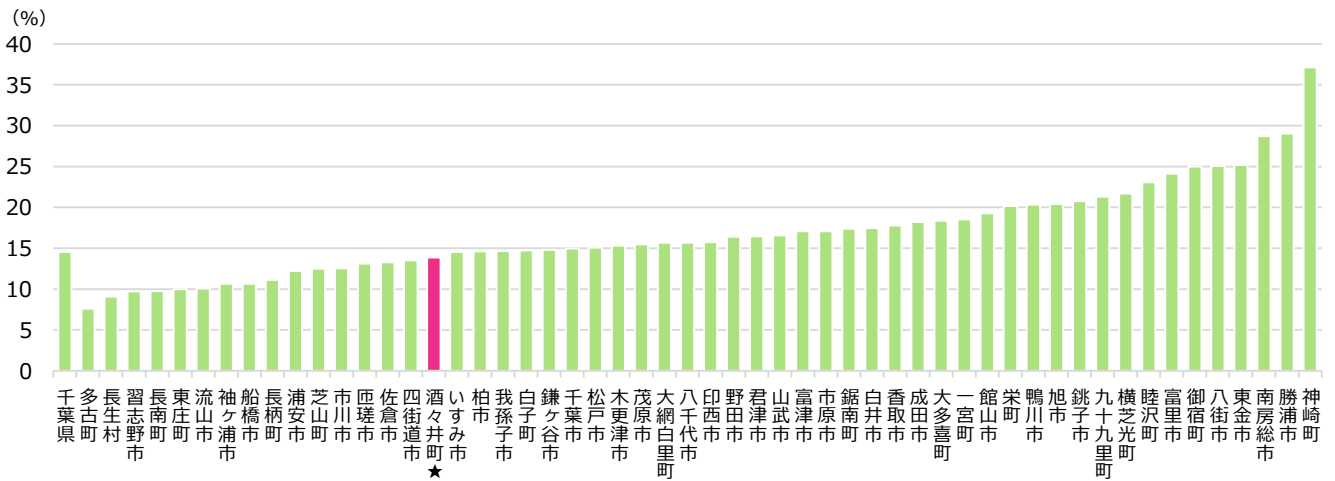
3歳児のむし歯保有率は年々減少しています。平成28年度までは県内の平均よりむし歯を保有する3歳児が多い値でしたが、平成29年度は県の平均値を下回っています。

■ 3歳児のむし歯保有率の推移



出典：酒々井町保健センター 3歳児健康診査データ（平成24～29年度）、千葉県（平成24～29年度）

■千葉県内市町村の3歳児におけるむし歯のない子どもの割合（平成29年度）



出典：千葉県（平成29年度）



●● 分析のまとめ

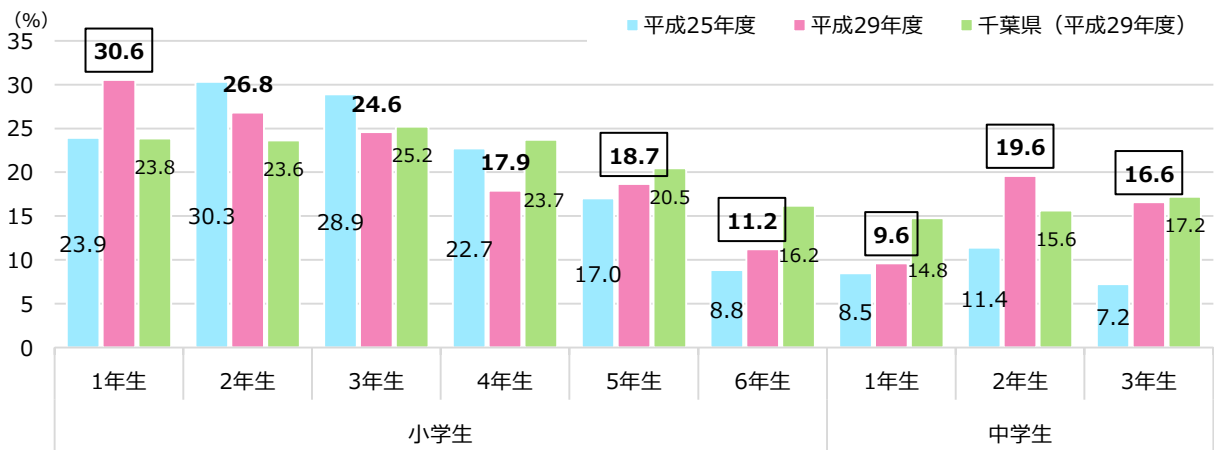
むし歯予防には、毎日の仕上げみがきと、甘味食品・飲料をとり過ぎないことが大切です。町では、むし歯のない児は年々増加していますが、1歳6か月児では県と比べ1日3回以上間食する習慣がある児が多いことから正しい食習慣を定着していく必要があります。

乳幼児期は口腔機能の成長発達の重要な時期です。歯みがき習慣を身につけること（仕上げみがきを含む）、定期的に歯科医院を受診してむし歯予防処置を受けることが重要です。

●● 学童/思春期

小学2～4年生でむし歯のある割合が減少している一方、小学1年生、小学5年生～中学3年生では増加しています。

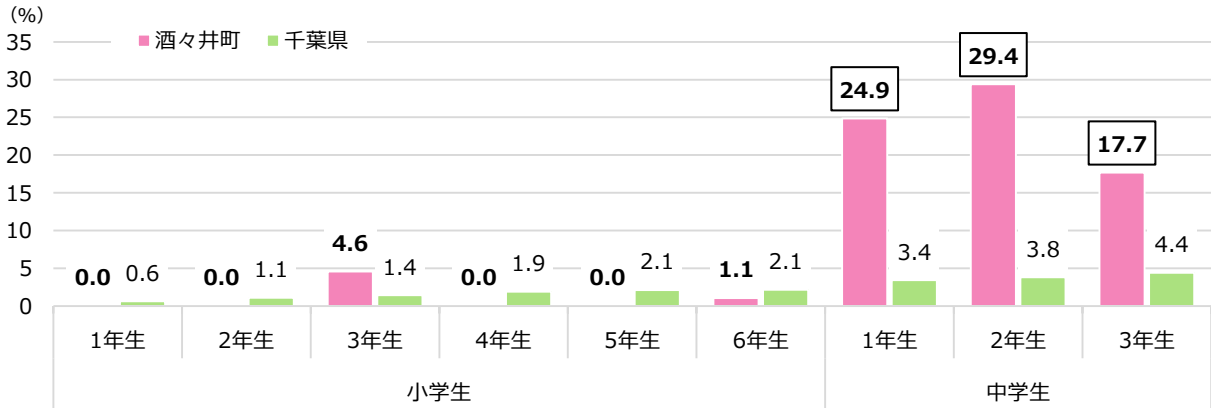
■小中学生学年別のむし歯の有所見者の割合の推移



出典：酒々井町立小中学校（平成25、29年度）、千葉県（平成29年度）

中学生における歯肉の炎症所見を有する生徒の割合が県の平均値に比べて高くなっています。

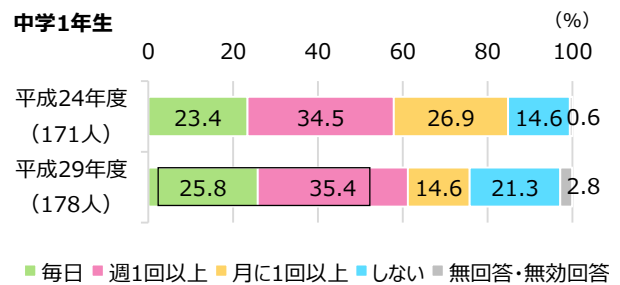
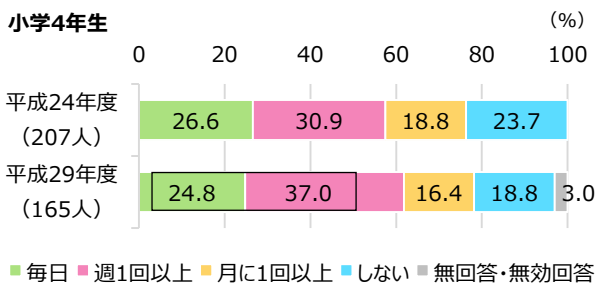
■小中学生学年別歯肉の炎症所見を有する児童・生徒の割合（平成29年度）



出典：酒々井町立小中学校（平成29年度）、千葉県（平成29年度）

自分の歯や歯肉の状態を観察する習慣が毎日、または週1回以上ある子どもの割合は、平成24年度と比べて増加しており、小学生では61.8%、中学生では61.2%となっています。

【子ども問16】自分の歯や歯肉の状態を観察する習慣（頻度）の状況



出典：平成24年度の値は前計画より



●● 分析のまとめ

年次推移で、小学2～4年生ではむし歯保有者が減少していますが、小学1、5、6年生や中学生では増加傾向にあります。さらに、中学生では歯肉に炎症を有する生徒が県と比べて大幅に多くなっています。

生涯にわたって健康な歯・口腔を保つためには、子どもの頃から口腔環境を整えることが大切です。そのため、学校教育の場を通して児童生徒の発達段階に合わせた歯と口腔の健康づくりを進める必要があります。

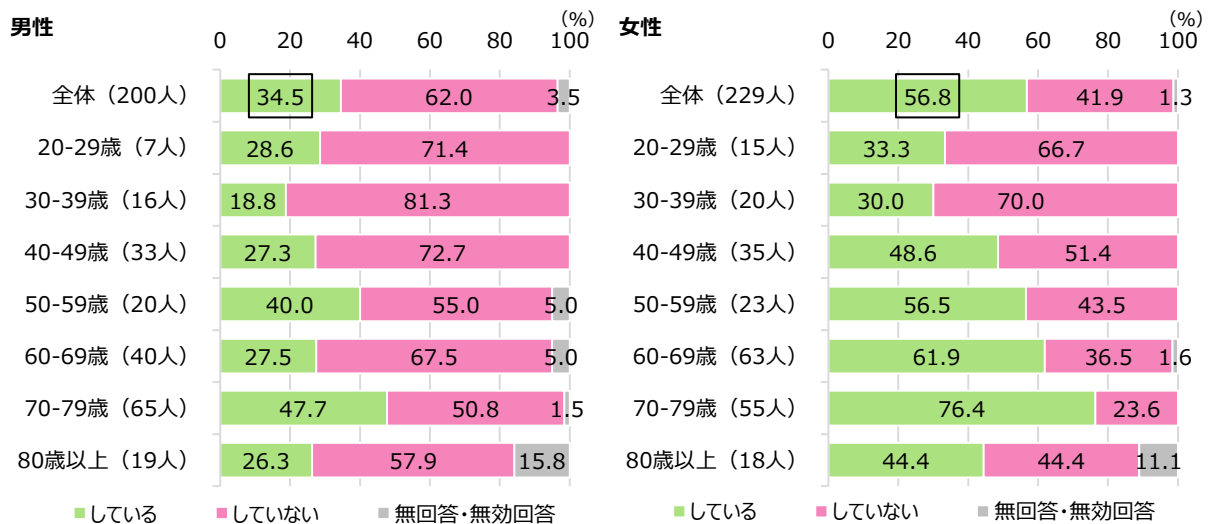
学童期（乳歯から永久歯への生え変わり時期）は不正咬合等がみられ、歯みがきが難しくなるだけでなく、食生活等の環境変化によりむし歯や歯肉炎が増加する傾向にあります。発達段階に合わせたフッ化物の利用、甘味の摂り方、口腔観察を行うことについて普及啓発を行う必要があります。

●● 成人期（妊婦期を含む）

年に1回以上歯科検診を受診している割合は、男性では34.5%、女性では56.8%となっています。男性では女性に比べて、どの年代でも受診率が低くなっています。女性では20～30歳代で30%台となっており、低くなっています。また、平成24年度から平成29年度までの成人歯科検診の受診率は、おおよそ0.8%で推移しています(*)。

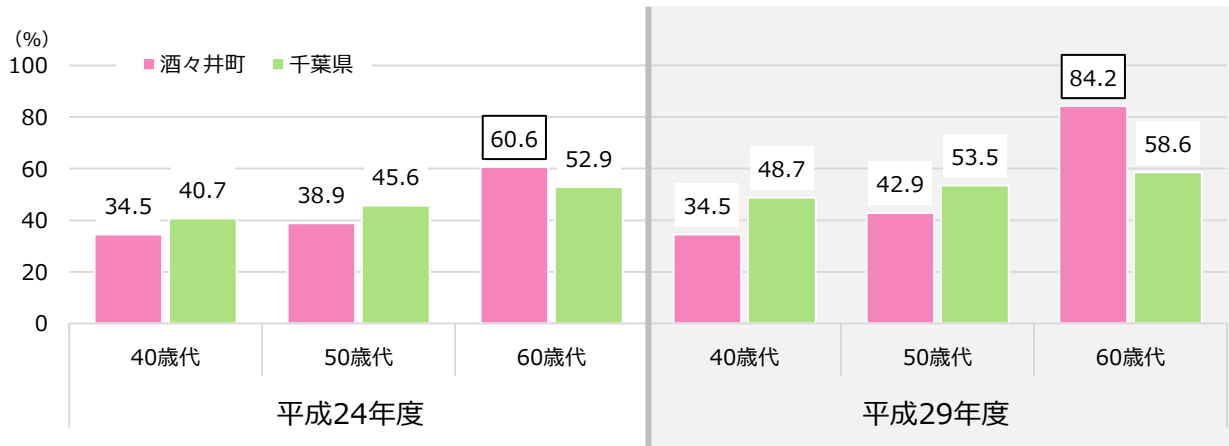
* 再掲：19ページ 図表35 成人歯科検診受診率と受診者数の推移

【大人問49】 歯科検診受診の状況



成人歯科検診において進行した歯周病の有所見率が多くなっています。特に、60歳代では平成29年度の歯周病の有所見率が84.2%となっており、平成24年度から増加しています。また県と比べても高く、平成29年度ではその差が大きくなっています。

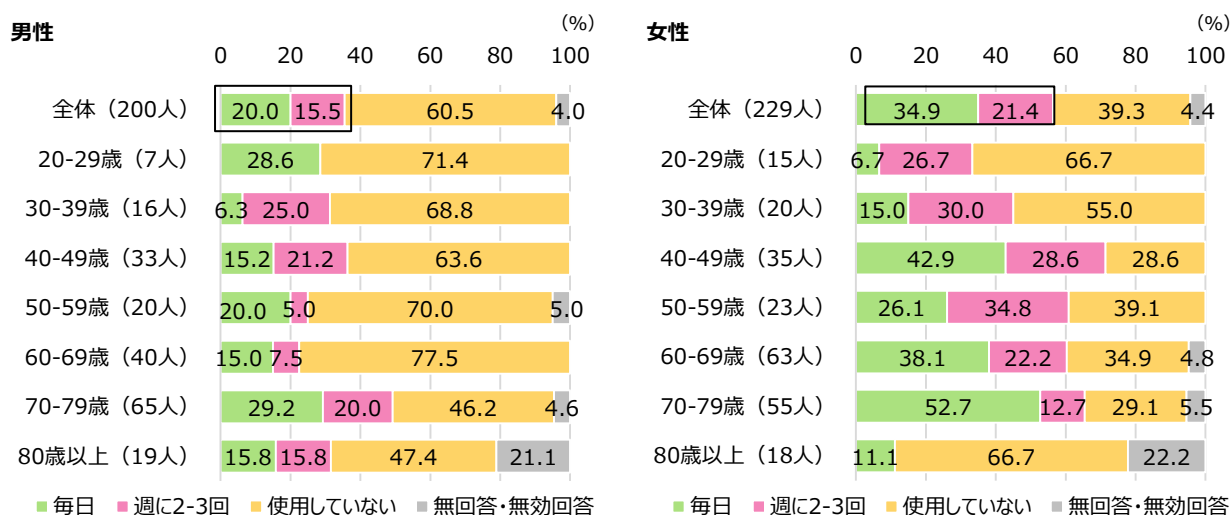
■ 成人歯科検診において進行した歯周病の有所見率の推移



出典：酒々井町保健センター（平成24、29年度）、千葉県県（平成24、29年度）

デンタルフロスや歯間ブラシなど歯ブラシ以外の歯間部清掃道具を毎日使用している、週に2~3回使用している割合を合わせると、男性では35.5%、女性では56.3%となっています。男性では使用していない割合がどの年代においても女性と比べて高くなっています。

【大人問 47】 歯間部清掃用具の使用状況



また、前計画の値と比べると、歯間部清掃用具使用者(毎日使用している、週に2~3回使用している割合)が減少している状況です。

【大人問 47】 歯間部清掃用具使用者割合

歯間部清掃用具使用者割合の推移 (%)	
平成 24 年度	平成 29 年度
59.6	46.6

出典：平成 24 年度の値は前計画より



分析のまとめ

成人(40歳代を除く)の歯周病有所見率は前回の調査に比べて、高値で推移しています。また、歯間部清掃用具使用者割合が減少していることから、この状態が続くとむし歯保有者や歯周病保有者が増加することが懸念されます。

歯の健康を維持することは、体の健康づくりの重要な項目の一つです。そのため定期的に歯科検診や歯科保健指導を受ける必要がありますが、男性全体及び女性の20~30歳代で1年に1度は歯科検診を受診している割合が低い状況です。このことから、学校卒業後は歯科検診や歯科保健指導を受ける機会が減り、歯や口腔(保健)への関心が薄れていることが考えられます。すべての年代(特に子育て世代)において、歯科検診・歯科保健指導の受診の重要性について普及啓発が必要です。

●● 高齢期

80歳以上で20本以上自分の歯を保有している人の割合は平成28年度では26.1%となっています(80~84歳は30.7%)。また、75歳における後期高齢者歯科口腔健康診査の受診率は平成28年度では9.1%、平成29年度では7.5%となっています。

■ 80歳以上で歯20本以上の歯を保有している人の状況(平成28年度)

20本以上の歯を保有している人の割合(%)	
平成24年度	平成28年度
42.8	26.1

出典：平成24年度の値は前計画より、平成28年度酒々井町介護予防日常生活圏域ニーズ調査実施報告書

■ 後期高齢者歯科口腔健康診査受診率

受診率(%)	
平成28年度	平成29年度
9.1	7.5

出典：千葉県後期高齢者医療広域連合 歯科健康診査報告書(平成28、29年度)

●● 分析のまとめ

80歳以上で20本以上自分の歯を保有している人の割合が前計画より減少しています。高齢期においては、歯の喪失が急増し、噛んだり飲み込んだりする機能(摂食嚥下機能)が低下し誤嚥が起りやすくなります。引き続き、定期歯科検診を受け、歯の喪失を防止し、さらに口腔機能の維持方法について広く普及啓発していく必要があります。

●● 障害のある人(要介護者を含む)

歯間部清掃用具を使用していない割合が障害のある人で64.3%を占めています。障害のある人等で、定期的に歯の検診を受けている割合は増加傾向にあり、平成29年度では47.6%となっています。

■ 歯間部清掃用具の未使用状況(平成29年度)

歯間部清掃用具未使用者の割合(%)	
一般成人	障害のある者
49.2	64.3

出典：酒々井町保健センター(平成29年度)

■ 歯科検診受診率の推移

歯科検診受診率の推移(%)	
平成24年度	平成29年度
42.6	47.6

出典：平成24年度の値は前計画より、酒々井町保健センター(平成29年度)

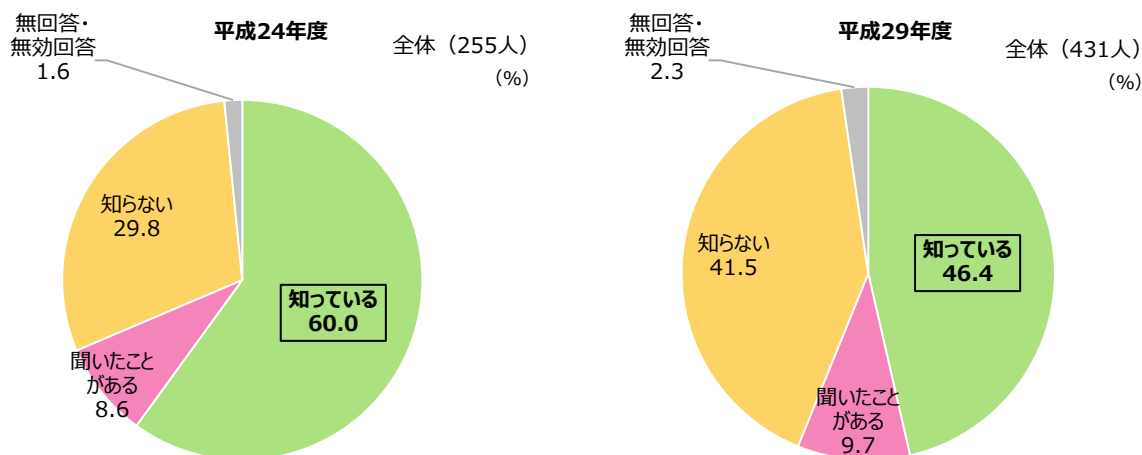
●● 分析のまとめ

障害のある人等では、歯間部清掃用具の未使用者の割合が一般の人と比べて高くなっていますが、定期的な歯科検診の受診率は増加傾向にあります。要介護者や障害者は、摂食嚥下機能の発達不良または低下がみられ、口腔が不衛生になりやすく、また、歯科検診の受診や治療を受けることが困難な場合もあるため、一般的に口腔内の状態が悪化しやすい状況にあります。定期的に歯科検診や歯科保健指導を受けてむし歯や歯周病を予防するだけでなく、口腔機能の維持・向上し、生活の質を維持・向上することが重要です。

●● 全てのライフステージ

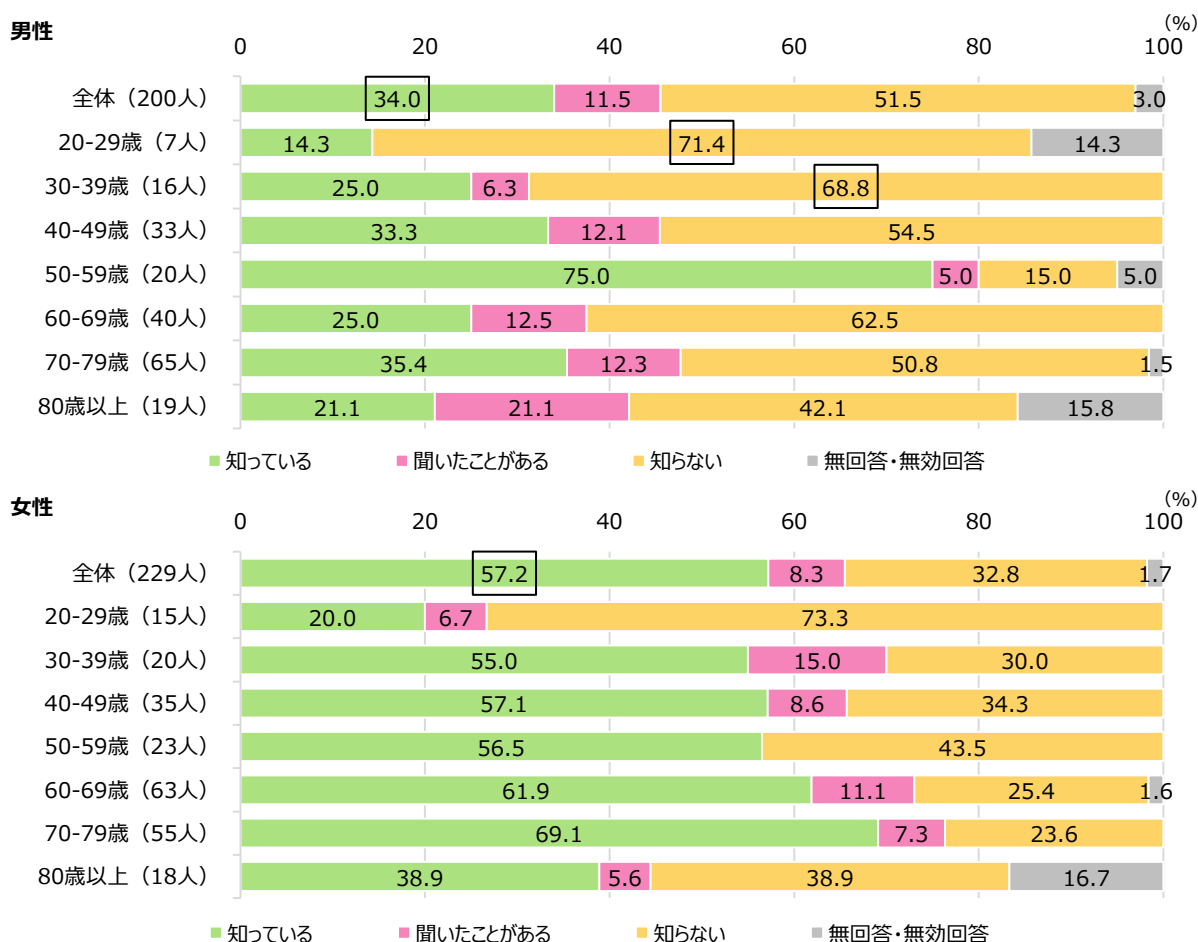
『8020 運動』を知っている割合は、平成 29 年度では 46.4%となっており、平成 24 年度と比べて大きく減少しています。また、『8020 運動』の認知度は男性では 34.0%、女性では 57.2%となっており、男性では認知度が低く、特に 20～30 歳代で低い状況です。

【大人問 52】『8020 運動』についての認知度（比較）



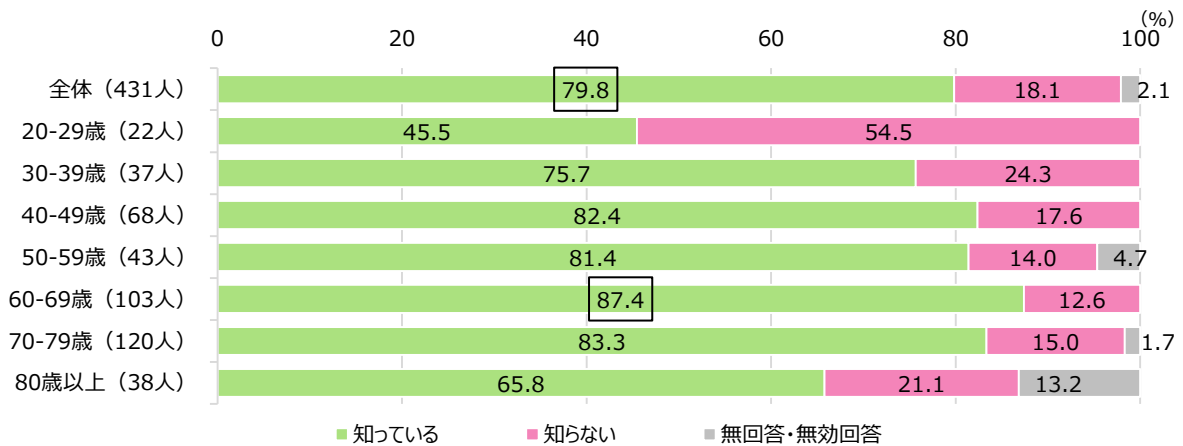
出典：平成 24 年度の値は前計画より

【大人問 52】『8020 運動』についての認知度



むし歯や歯周病が全身の病気に関連していることについて知っている割合は、79.8%となっています。60歳代では87.4%となっており、最も高い割合を占めています。

【大人問 53】 むし歯・歯周病が全身の病気に関連していることの認知度



よく噛む事を意識している人の割合は、平成24年度と比べて、子どもも大人も、微増しています。

【大人問 50/子ども問 15】 よく噛む事を意識している人の割合（比較）

年代	平成24年度			平成29年度		
	はい (%)	いいえ (%)	無回答・無効回答 (%)	はい (%)	いいえ (%)	無回答・無効回答 (%)
小学4年生	76.3	22.7	1.0	84.8	12.7	2.4
中学1年生	67.8	32.2	0.0	72.5	24.7	2.8
成人	54.5	43.9	1.6	56.8	41.8	1.4

出典：平成24年度の値は前計画より



分析のまとめ

『8020運動』の認知度が前回に比べて減少しています。80歳で20本以上の歯を持つことは生涯にわたる健康と生活の質の維持向上のためにも重要です。『8020運動』について普及・啓発していくとともに、歯や口腔の健康づくりについて啓発していく事が重要になります。

よく噛むことは、だ液が出やすくなり食べ物の消化や吸収を良くします。幼児・学童・思春期においては顎の発達を助け、言葉の発音を良くすることができます。また、成人期・高齢期においては肥満の予防、脳の活性化など様々な効果が期待されることから、全てのライフステージにおいてよく噛んで食べる習慣を形成する必要があります。

歯や口腔の健康と全身との健康の関わりについて普及・啓発し、町民の歯と口腔への意識を高める必要があります。

(2) 取組みの方向性

歯と口腔の健康は、単に食べ物を噛み、栄養を摂取するために必要なだけでなく、表情を作ったり、会話を楽しむなど、生涯にわたる健康と生活の質の維持向上のためにも重要です。町では、「酒々井町民の歯と口腔の健康づくり推進条例(7条)」における基本的施策(8020運動の推進、幼児期及び学齢期におけるむし歯予防対策、成人期における歯周病対策、障害のある者及び介護を必要とする者等の適切な歯科医療及び口腔ケア等の推進、生涯を通してよく噛むことの推進、災害時における歯科口腔保健対策)に基づき、生涯を通じた歯科疾患の予防及び口腔機能の発達と維持向上を推進し、歯と口腔の健康づくりのための環境整備を行うことで町民の歯と口腔の健康づくりを行います。子どもから高齢者まで全てのライフステージにおいて、町、保健、医療、社会福祉、教育等関係機関との連携及び情報の共有を図り、様々な分野が実施する歯科保健指導を通じて、一人ひとりが歯と口腔の健康づくり意識し、セルフケアが定着出来るように知識・技術の普及啓発を行います。

スローガン

生きる力を支える健口な歯をつくろう

行動目標

毎食後、歯をみがく

定期的に歯科検診を受ける

8020を目指す

町民の取組み

ライフステージ	取組み
乳幼児期	<ul style="list-style-type: none"> ● 歯みがきの習慣を身につけます（小学生までの仕上げみがきを含む） ● 甘味食品・飲料のとり方に注意し、正しい食生活を身につけます
学童/思春期	<ul style="list-style-type: none"> ● 歯科健診後に指摘を受けたら早めに受診します ● かかりつけ歯科医院を持ち、定期的に歯科健診やフッ化物歯面塗布などを受けます ● 歯や口腔を観察する習慣を持ちます
成人/高齢期	<ul style="list-style-type: none"> ● 歯間部清掃用具、フッ化物等を使用した正しい歯みがき習慣を身につけ、むし歯や歯周病を予防します
障害等のある人及び介護の必要のある人	<ul style="list-style-type: none"> ● かかりつけ歯科医院を持ち、定期的に歯科検診や歯科保健指導を受けます ● 口腔機能の維持向上を目指します
全てのライフステージ	<ul style="list-style-type: none"> ● 『8020運動』を理解し、目指します ● 歯と口腔の健康が全身の健康と関係していることを知ります ● 毎食よく噛むことを意識します



●● 地域や関係団体、行政の取組み

地域や関係団体の取組み	行政の取組み
<ul style="list-style-type: none"> ● 保育園、学校歯科医として、園児・児童・生徒に歯と口腔の健康づくりの普及啓発を行います（三師会*） ● 保育園において歯科健康診査を行います（三師会） ● 小中学校において歯科健康診査及び歯科管理検診を行います（三師会） ● 定期的に歯科検診を受けることの重要性を啓発します（三師会、健康推進員） ● 町が行う歯と口腔の健康づくりの教室やイベント等に協力します（三師会、健康推進員） ● 歯と口腔の健康づくりをテーマに地域活動等を支援します（健康推進員） ● 成人歯科検診、ママ・パパ歯科検診を行います（三師会） ● 口腔機能の重要性、歯と口腔の健康と全身の健康について情報提供をします（三師会） ● 地域サークル、自治会、老人会活動等において歯と口腔の健康づくりに関する健康教育の機会を設けます（地域） ● 要支援・要介護サービスを受けている町民に対し、歯と口腔の健康づくりについて普及・啓発し、適切な歯科口腔保健医療サービスが受けられるように情報提供等を行います（地域包括支援センター） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 乳幼児期から正しい歯みがき習慣や食生活を定着させるために保護者等に年齢に応じた歯と口腔の清掃方法を指導、甘味の摂取方法や量について各関係機関と連携して普及啓発に努めます（乳幼児期） ● むし歯予防のためにフッ化物の利用を推奨いたします（全てのライフステージ） ● 幼児期から歯科保健指導を受ける機会を増やし、歯と口腔の健康の重要性を学ぶ機会を増やすようにします（乳幼児期） ● むし歯及び歯周病予防、早期発見や治療を促進し、正しい歯みがきや食生活習慣が定着できるように、関係機関と歯科保健推進体制の充実を図ります（児童・思春期） ● 自ら歯と口腔の健康に取り組み、セルフチェックができるようになるよう口腔の健康の重要性を学べるよう学習する機会を増やします（児童・思春期） ● 妊娠中の口腔ケアの重要性を普及・啓発するためママ・パパ歯科検診の受診勧奨に努めます（成人・妊婦期） ● 定期的に歯科検診を受けられるように成人歯科検診及び後期高齢者歯科口腔健康診査の受診勧奨に努めます（成人・高齢期） ● 障害等のある方が適切な歯科口腔保健医療サービスを受けられるように情報提供をします（障害のある人等） ● 定期的に歯科検診や歯科保健指導を受けることの重要性を啓発します（全てのライフステージ） ● 歯と口腔の健康づくりの重要性を周知する機会を増やし、町民自らセルフケアできるようにイベントや教室を開催します（全てのライフステージ） ● 口腔の働きや口腔機能の重要性を広く周知し、健康教室や出前健康講座等を実施します（全てのライフステージ） ● 口腔機能維持や口腔ケアの重要性を広く周知し、必要とされる方への相談体制を整備します（全てのライフステージ） ● 歯や口腔の健康教室やイベント等で周知する機会を増やします（全てのライフステージ）

*三師会は、正式名称を「酒々井町三師会」といい、酒々井町に開業している医師、歯科医師、薬剤師で構成している会です。



『8020運動』とは？

「80歳になっても自分の歯を20本以上保てるよう、歯と口腔の健康づくりを進める運動」を言います。よく噛める歯があると右の表のような効果があります。

健康な歯や口を保ち、生涯自分の歯でおいしく食べられるよう、町でも『8020運動』を推進しています。

- だ液の分泌を高め、食べ物の消化吸収を助けます。
- だ液成分の中には殺菌効果があり、細菌や発ガン性物質を抑える働きがあるため、病気の予防にもなります。
- 噛むことで脳の働きが活発になるため、子どもは集中力が高まったり、高齢者は認知症予防になります。

●● 関連する事業

事業名	実施内容	担当課・協力機関等
歯科健康相談	毎週月曜日（祝日、がん検診の日を除く）の午前中、保健センターで各種相談を行います	健康福祉課
乳児相談	10か月児に、歯科衛生士によるブラッシング指導と歯ブラシの配布を行います	健康福祉課
1歳6か月児健康診査	内科・歯科健診、身体計測、育児・栄養相談や歯科衛生士による赤染め、ブラッシング指導を行います	健康福祉課、三師会
2歳児歯科健康診査	歯科健診、身体計測、ブラッシング指導、フッ化物歯面塗布などを行います	健康福祉課、三師会
3歳児健康診査	内科・歯科健診、身体計測、尿検査、育児・栄養相談や歯科衛生士によるブラッシング指導を行います	健康福祉課、三師会
あいあい子育て講話	保健師・栄養士・歯科衛生士による子育て講話等を行います	健康福祉課、こども課
親と子のよい歯のコンクール	3歳児を対象としたむし歯のない親と子に対して、歯と口腔の健康が優れている親子を1組表彰します	健康福祉課、三師会
なかよしはみがき指導	保育園・幼稚園の年長児を対象にむし歯について話とブラッシング指導を行います	健康福祉課、こども課 町内保育園・幼稚園等
保育園児歯科健康診査	年に1回歯科健診を行います	健康福祉課、こども課
かみかみメニューの実施	よく ^か 噛む献立を作成し、給食便りで保護者に周知します。小学校においては校内放送で、メニューの説明と特によく噛んで食べるように放送します	こども課 学校給食センター
学校歯科健康診査	児童・生徒に対して年に1回歯科健診を行います	学校教育課、三師会 健康福祉課
歯科管理検診	春の歯科健診でC O、G Oの児度生徒に対し歯科検診を行います。健診後改善が認められない児童に対しブラッシング指導を実施します	学校教育課、三師会 健康福祉課
学校ブラッシング指導	各クラス歯科衛生士による講話、赤染め、ブラッシング指導を実施します	学校教育課、健康福祉課
特別支援学級ブラッシング指導	歯科衛生士による講話、赤染め、個別のブラッシング指導を実施します	学校教育課、健康福祉課
健歯の表彰	むし歯や歯周病のない健康な口腔をもつ小学校6年生、中学校3年生の代表者各1名を表彰します	学校教育課
歯みがきタイム	給食後、小学校で歯みがきを行う時間を設けています	学校教育課
ママ・パパ歯科検診	妊婦とその配偶者に、妊娠中からの口腔ケアの大切さや生まれてくる赤ちゃんの口の健康づくりのため、むし歯・歯周病検診を一人一回無料でを行います	健康福祉課、三師会
成人歯科検診	40歳以上の方を対象に、町内の契約歯科医療機関で歯科検診を行います（6月から12月まで）	健康福祉課、三師会
歯と口腔の健康教育	各種教室や出前健康講座でむし歯、歯周病予防、口腔機能の維持等、歯と口腔の健康づくりの重要性について広く周知し具体的な方法について指導します	健康福祉課
おいしく食べて歯ッピーになろう	65歳以上の介護認定を受けていない高齢者に対して歯と口腔機能について学ぶ教室を開催します	健康福祉課、三師会
出前健康講座	各地域に出向き、歯と口の健康づくりの教室を行います	健康福祉課
^か 噛むことのイベント	ふるさとまつりで噛む力の判定を行うコーナーを設けて噛むことの重要性を広く周知します	健康福祉課、健康推進員
酒々井町高齢者のよい歯のコンクール	80歳以上で20本以上の歯を有し、歯の健康が優れている方を表彰します	健康福祉課、三師会
広報など	歯と口腔の健康づくりについて「広報ニューすい」を通して町民に周知します	健康福祉課

事業名	実施内容	担当課・協力機関等
訪問歯科健康相談	身体の不自由な町民に対し、訪問にて歯科健康相談や口腔ケアの方法を教えます	健康福祉課
介護施設等への訪問	各施設での歯科口腔保健の推進のための意識や知識の向上を目指します	健康福祉課 町内介護施設等

歯周病と全身への影響

歯周病を引き起こす原因は、歯と歯肉の間にたまった歯垢の中にいる歯周病菌です。歯周病菌が歯肉にダメージを与え、歯肉だけでなく歯を支える組織を破壊していきますが、歯周病が進行しても痛みなどの自覚症状がほとんどないため、気づきにくく、症状が出た時は進行していることが多いです。

さらに、歯周病菌は歯肉の血管を通り全身の血管に流れていきます。体の中に入り込んだ菌は、高血圧症、動脈硬化、心疾患、骨粗しょう症、糖尿病、肺炎等の病気や早産、低体重児出産等を誘発または悪化させます。

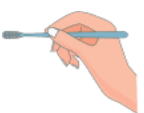
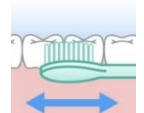
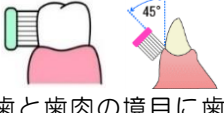


また、口の中に菌が多いと風邪やインフルエンザなどにもかかりやすくなります。規則正しい生活と歯みがき習慣で歯周病を予防しましょう。

～歯周病になりやすい生活習慣～ セルフチェックしてみよう！

- 間食が多い
- よく噛まずに食べている
- ストレスをためやすい
- タバコを吸う
- 食後に歯をみがかない（特に夕食後）
- 体の抵抗力が弱っている



●●●口の病気の原因、歯垢を落とす歯みがきをしよう●●●

<p>鉛筆もちで 持ちましょう</p>  <p>歯ブラシの持ち方に 注意して軽い力でみ がきましょう。</p>	<p>横に小刻みに 1本1本みがきましょう</p>  <p>5mm以下の幅で細か く動かしましょう。 (1歯20回位)</p>	<p>毛先を歯と歯肉の 境目に当てる</p>  <p>歯と歯肉の境目に歯 垢が残ります。</p> 	<p>歯の間は補助清掃 用具を使いましょう</p>  <p>歯ブラシでは落とし にくい歯垢は、フロス や歯間ブラシを使っ てみましょう。</p>
--	--	---	---

※みがきにくいところは歯ブラシを縦にしてみがく等、ご自身の歯に合ったみがき方の工夫をしましょう。

施策の方向性2) 歯科口腔保健を推進するための環境整備

(1) 現状と課題

●● 関係機関との連携の推進及び情報の共有と活用が必要

乳幼児から高齢者、障害のある人などあらゆる人が適切な歯科口腔保健や医療サービスを受けるためには、地域性を踏まえ、行政だけでなく三師会、教育機関、介護保険施設、障害者支援施設等で連携体制を構築するとともに、環境の整備を図る必要があります。

●● 災害時における歯科口腔保健対策が必要

近年、自然災害が各地で起こっていることから、平常時から災害対策関係者の役割分担を明らかにし、関係団体や機関との連携方法等体制を整える必要があります。

地震等の大規模な災害が発生した場合、歯科口腔保健の支援が必要になります。日頃から町民に対して防災用の口腔ケアグッズの備えの必要性、口腔ケアの重要性やその方法等について普及・啓発する必要があります。



(2) 取組みの方向性

町民が歯科口腔保健を推進していく中で、社会環境の整備は必要不可欠です。生涯において適切な歯科口腔保健や医療サービスを受けるための環境整備や災害時における歯科口腔保健の支援体制の整備のため、行政、歯科医療保健関係者や関係機関が適切な連携を図ります。

●● スローガン

歯と口腔の健康づくりにみんなで取り組もう

●● 行動目標

正しい情報を得る

歯と口腔の健康について関心を持つ

●● 町民の取組み

ライフステージ	取組み
全てのライフステージ	<ul style="list-style-type: none"> ● 歯と口腔の健康づくりについて意識し、実践します ● 日頃から災害時に備えて必要な口腔ケアグッズを準備します

●● 地域や関係団体、行政の取組み

地域や関係団体の取組み	行政の取組み
<ul style="list-style-type: none"> ● 歯科口腔医療・保健等、町民が必要とする情報及び医療を提供します（三師会*、地域包括支援センター、健康推進員） ● 平常時から行政等と連携を図り、災害時の対策方法について検討していきます（三師会、地域包括支援センター、関係施設等、健康推進員） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 誰もが適切な歯科医療サービス等が受けられるように各機関と連携し、情報を共有します。また、得た情報を町民へ提供します ● 災害時において口腔ケアを実施することの重要性を、広報や町ホームページ、教室等で平常時から町民へ普及啓発します ● 災害時等における行政、三師会、関係機関等との連携を図れるよう体制を整えていきます ● 災害時の対策方法について検討していきます

*三師会は、正式名称を「酒々井町三師会」といい、酒々井町に開業している医師、歯科医師、薬剤師で構成している会です。



評価指標、目標値

計画の実施にあたり、以下の評価指標、目標値を設置し、関連事業の取組みについて、評価、見直し、改善を行っていきます。

	指標	現状値 (平成29年度)	目標値			
乳幼児期	3歳児におけるむし歯のない児の割合	86.1%	90%以上			
	1歳6か月児で間食（おやつ）を1日3回以上飲食する習慣を持つ児の割合	7.2%	5%以下			
	毎日保護者が仕上げみがきをする習慣のある児の割合	<table border="1"> <tr> <td>1歳6か月児</td> <td>91.2%</td> <td rowspan="2">100%</td> </tr> <tr> <td>3歳児</td> <td>94.1%</td> </tr> </table>	1歳6か月児	91.2%	100%	3歳児
1歳6か月児	91.2%	100%				
3歳児	94.1%					
学童・思春期	12歳児における1人平均むし歯数	0.54本	0.5本以下			
	歯肉の炎症所見を有する（G）生徒の割合	中学生	24.1%	15%以下		
	よく噛んで食べることを意識している児童・生徒の割合	小学4年生	84.8%	90%以上		
		中学1年生	72.5%			
週1回以上自分の歯や歯肉の状態を観察する習慣のある児童・生徒の割合	小学4年生	61.8%	70%以上			
	中学1年生	61.2%				
成人・高齢期	80～84歳で自分の歯を20本以上有する人の割合	30.7%*	50%以上			
	定期的に歯科検診を受けている人の割合	46.2%	60%以上			
	定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている人の割合	49.2%	60%以上			
	成人歯科検診受診率	0.6%	増加へ			
	成人歯科検診において進行した歯周病を有する人の割合	40歳代	34.5%	20%以下		
		50歳代	42.9%	30%以下		
		60歳代	84.2%	60%以下		
	歯間部清掃器具を使用している人の割合	46.6%	60%以上			
	よく噛んで食べることを意識している人の割合	56.8%	65%以上			
	8020運動を知っている人の割合	46.4%	60%以上			
口腔と全身との関わりについて知っている人の割合	79.8%	85%以上				
障害等	定期的に歯科健康診査を受けている人の割合	47.6%	60%以上			

*平成28年度酒々井町介護予防・日常生活圏域ニーズ調査